

2021

京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）

大学院

芸術研究科（通信教育） 芸術環境専攻修士課程

[授業科目概要]

INDEX

修了要件一覧 01

授業科目概要

専攻共通 01

分野特論 02

演習・研究科目 03

自由選択科目 06

修了要件一覧

	芸術環境研究領域 【比較芸術学/文化遺産・伝統芸術/ 芸術教育/地域文化デザイン】	美術・工芸領域 【日本画/洋画/陶芸/染織】	環境デザイン領域 【建築デザイン/日本庭園】	超域プログラム 【制作学(後藤繁雄ラボ、 青木芳昭ラボ)】	学際デザイン研究領域
専攻共通	6単位以上 (「芸術環境論特論I、II」4単位修得済み、「芸術環境原論I、II」から2単位以上修得済み)				
分野特論	8単位以上				
演習科目 (1年次～)	8単位				
研究科目 (2年次～)	8単位				
修了要件	30単位以上 (「修士論文」あるいは 「修士研究活動実施報告書」の 審査および試験に合格)	30単位以上 (「修士制作作品および 制作研究ノート」 の審査および試験に合格)	30単位以上 (「修士制作作品および制作研究ノート」 あるいは「修士論文」* あるいは「修士研究活動実施報告書」* の審査および試験に合格) ※日本庭園分野のみ	30単位以上 (後藤ラボは「修士論文」、 青木ラボは「修士制作作品 および制作研究ノート」の 審査および試験に合格)	30単位以上 (「修士研究活動実施報告書」の 審査および試験に合格)

授業科目概要

2021年度開講予定の授業科目紹介です。一部、変更になる場合があります。

必……必修科目(必ず履修しなければならない科目)

選……選択科目(履修を各自で選択できる科目)

選必……選択必修科目(いずれかの科目を必ず履修しなければならない科目)

TX=テキスト特別科目 / **S**=スクーリング科目 / **WS**=Webスクーリング科目 / **SR**=スクーリング演習・研究科目

専攻共通(全領域)

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境論特論 I TX	必	2	芸術と環境とを、異種の二元とせず、ともに相互に浸透し合い人間による制作的な所産として考察することにより、従来の美術や職業的なデザインの枠を越えた新たな芸術への視座を手に入れる。
芸術環境論特論 II TX	必	2	特定の環境下における人間の芸術活動の成立と今日的なありかたを、具体的な事例に即して考察する。
芸術環境原論 I TX	選必	2	芸術環境によってもたらされる具体的な場所の経験が、どのような要素によって、どのように構造化されているのかを考察する。
芸術環境原論 II TX		2	各自または身近な芸術環境をカルトグラフィーによって明らかにする。自然、社会的関係、歴史といった様々な環境の要素に着目し、それらを可視化した地図の作成を通じて、各自が置かれている芸術環境について考察する。

分野特論(全領域)

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境特論 I-1、2 TX	選	各2	芸術環境を研究するさまざまなアプローチの仕方を学ぶため、それぞれの重要文献をもとにして、学生の方法論的考察を深める。 ※芸術環境研究領域(比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野)必修
芸術環境特論 V-1～9 S	選	各1	担当教員のその年々の研究内容を反映した講義。比較芸術学、文化遺産・伝統芸術という各分野の専門的な講義を通じて、各自の視野・知見を広げるとともに、研究テーマの設定、調査・分析、論証の手法を修得する。 ※芸術環境研究領域(比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野)は2科目選択必修
美術・工芸特論 I-1、2 TX	選	各2	I-1では美術・工芸に関する古典的著作を批判的に読み解くことを目標とし、I-2ではそのうえで各自の制作行為を今日の社会環境のなかに位置づけて考察することを目標とする。制作という営みは決して個人的な表現内に完結するものではない。技術という共有物を用い、また言語や感性的規範といった社会的な構成物とともに遂行される。そうした制作を支えるものに対する洞察を深め、それを反省的な言語によって記述することを2つの科目を通じて行う。 ※美術・工芸領域必修
美術・工芸特論 III-1、2 S	選	各1	美術・工芸の領域各分野の担当教員をはじめとする複数の教員により、「芸術と創作」をテーマとした講義を展開する。授業を通じ自身の制作・研究に対する思想的背景の確立および批評的意識を養うことを目指す。 ※美術・工芸領域必修、学際デザイン研究領域履修不可
美術・工芸特論 IV-1、2 TX	選	各1	美術・工芸特論III-1、2各科目受講後に、講義で得られた知見や思想を基点として、学生が各自の普段の制作やテーマを振り返り、そこから浮かび上がった問題や新たな考え方を整理して記述することで、自作へのより有効なアプローチに繋げる。 ※美術・工芸領域必修、学際デザイン研究領域履修不可
環境デザイン特論 I-1、2 TX	選	各2	I-1では「プロジェクト研究(日本庭園)」、I-2では「工法・技法研究(日本庭園)」について、教材の精読、資料収集・調査・整理・分析を行う。それらを通して、自身の修了制作・研究テーマを抽出するための知見および洞察力を獲得し、さらには自身の研究を客観的に位置づけることのできる判断力を養う。 ※日本庭園分野必修
環境デザイン特論 II-1、2 TX	選	各2	II-1では「建築論」「日本庭園論」、II-2では「都市論」「ランドスケープ論」からそれぞれ1課題を選択し、教材・文献の精読、整理・分析・評価を行う。これらを通して、自身の修了制作・研究を進めるための環境デザイン領域共通の理論的背景を共有・獲得し、さらには環境デザイン領域の視点から自身の制作・研究を再検証するための契機をあたえる。 ※II-1は環境デザイン領域必修、II-2は日本庭園分野必修
環境デザイン特論 III-1、2 TX	選	各2	III-1では「プロジェクト研究(建築)」、III-2では「工法・素材研究(建築)」について、教材の精読、資料収集・調査・整理・分析を行う。それらを通して、自身の修了制作・研究テーマを抽出するための知見および洞察力を獲得し、さらには自身の研究を客観的に位置づけることのできる判断力を養う。 ※建築デザイン分野必修

分野特論(比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野)

※比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境特論 I-3 TX	必	2	修士論文を書くための基礎的な能力を養う科目。先行研究を収集し、批判的に読解するための知識と方法を実践的に身につける。

分野特論(芸術教育分野、地域文化デザイン分野)

※芸術教育分野、地域文化デザイン分野のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境特論 III-1、2 TX	必	各2	III-1では芸術活動の持つ自己教育的な側面を古典的著作の読解を通じて学ぶとともに、社会のなかでどのように芸術活動を生かすことができるのかを考察する。 III-2では今日の芸術活動の射程をあらためて反省し、芸術のもたらす身体性や場所性を考慮しつつ、その社会教育的な役割について実践的な理解を目指す。
芸術環境特論 VI-1、2 S	必	各1	個的な身体に内在する芸術活動をどのように外部に開いてゆくの、またその教育可能性を、社会活動や自然素材とのかかわりを通じて学ぶ。
芸術環境特論 VI-3、4 S	必	各1	芸術活動の場をどのように作ってゆかについて、子どもを対象とした場合や地域社会を対象とした場合に即しつつ、方法論的な考察を深める。

分野特論(建築デザイン分野)

※建築デザイン分野のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
環境デザイン特論 IV-3、4 S	必	各1	設計事務所の業務や倫理に関する講義に加え、法規・施工・生産に関して具体例に沿った技術的知識を習得する。

分野特論(超域プログラム)

※超域プログラムのみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
超域制作学特論 I-1、2 TX	必	各2	近現代の制作行為にかかわる批評言語の習得のため、いくつかの範例的な文献を参考にして、キーワードとその使用法を理解する。I-1では20世紀美術の用語を、I-2では近代デザインの基礎概念を扱う。
超域制作学特論 IV-1、2 TX	必	各2	本科目はコンテンポラリー・アートの諸文脈を理解するため、学生の発表とそれに対する指導講評を通じて指定された文献の読解を行う。 ※後藤ラボのみ履修可かつ必修
超域制作学特論 V-1、2 TX	必	各2	絵画を複合的に構築する社会・技術・素材のうち、本科目では素材研究により表現の可能性を把握する。V-1では表面的な色料を、V-2では色奥の展色材や基底材について熟考する。 ※青木ラボのみ履修可かつ必修

分野特論(学際デザイン研究領域)

※学際デザイン研究領域のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
学際デザイン特論 I-1 TX	必	2	デザインという概念の変遷を、社会とデザインの関わりや、デザイン教育の歴史からひもとく。また、さまざまなデザイン思考について、その成立の背景およびプロセスを探る。
学際デザイン特論 I-2 TX	必	2	デザインを構想するための調査法を多面的に取り扱い、研究の基礎として位置づけ、質的調査法・地域デザイン調査法の手法について、課題による実践を通して学ぶ。
学際デザイン特論 II-1 TX	必	2	伝統文化の定義や日本文化の大きな流れを知るとともに、形式分析や文化的分析など、ものごとのとらえ方について学ぶ。
学際デザイン特論 II-2 TX	必	2	論文の構造をはじめ、文献のリサーチ方法や図書館の利用法、論文の分析方法について学び、今後の研究の基礎とする。

芸術環境研究領域 演習・研究科目

※芸術環境研究領域のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
芸術環境演習 I SR	必	4	午前中は研究の基本となる方法論や考え方を修得するための準備として、WEB上および対面授業において各ゼミ共通の作業課題(文献の購読・調査報告)についての発表・討論をする。 午後は修了研究に着手するための事前指導。各自の問題意識に基づき修了研究につながるテーマを設定する。研究の方法論を探るとともに、対象についての<調査、分析、まとめ、提案・報告>という一連のプロセスを通じて、研究領域の深長・発展を図り、修了研究の方向性を決定する。
芸術環境演習 III SR	必	4	
芸術環境研究 I SR	必	8	修了研究を完成させるための科目。自らが提起したテーマについて、芸術全般に関する総合的な知識と視野に裏打ちされた、新しい、あるいは独自性のある知見を得るべく研究を拡張させ、最終的には一定の見解を導くとともに、その見解に達するまでの思考のプロセスを、論理的に説明できることが求められる。

美術・工芸領域 演習・研究科目

※美術・工芸領域のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
美術・工芸演習 SR	必	8	<p>[日本画分野] 日本画における対象物との関わり方と、表現の核となる精神性を改めて問い直してみたい。そのためには形だけではなく「生」を写す写生の在り方に立ち返ると同時に自己の内面を深く見つめること、またさまざまな表現技法と描画材料の理解・探究が必要である。本科目では、各自の創作の主題を追求しつつ、実践者である画家の話に耳を傾け、また素材の研究を通じて表現技法の巾を広げていく。</p> <p>[洋画分野] ゼミ形式で指導を行いながら各自の表現をより専門的に深め拡げていく。現代の絵画を考察しつつ「創ること」「描くこと」の意味を改めて問い直し、単なる形式の新しさではなく思考としての新しさを探り、自身のテーマを如何に具現化するか制作の展開をはかる。また、活躍している作家による特別講義や実技、合評等を通して、自身の作品を客観視する力を養う。</p> <p>[陶芸分野] 多様化する現代の陶芸だが、独自の表現を求めるとともに、釉薬や土、焼成、制作の技術を知ることには大変重要である。それらの技術を再確認するとともに、自身の制作へ還元することを狙う。素材、技法に各自の感性を組み合わせることで他者に感動を与えるような新しい表現の確立を目指す。</p> <p>[染織分野] これまで積み上げてきた造形のあり方を問い直し、高めていくには何が必要かを探ります。素材・技法・主題などのうち、継続して取り組むものを設定し、作品制作と制作研究ノートによる論述を通して研究を進めます。基礎を知った上でしか理解できない新たな技法、より高度な技法を、ワークショップにて学んでいきます。前半では、作品の完成度よりも何からの手がかりをつかむことをめざし、試作を行います。後半では試作をふまえ、染織の特性を生かした造形作品の完成をめざします。</p>
美術・工芸研究 SR	必	8	<p>[日本画分野] 「美術・工芸演習(日本画)」で学んだことに、各自が社会に向けて発したいメッセージを重ね、独自の表現方法を確立していく。広い視野で社会全体と美術界を把握し、その中での自己の立ち位置を見定め、精神に訴える作品へと創作の向上をめざす。描くことと自分が生きることとの関連を見出し、大学院修了後も続いていく創作活動の指針と礎を築く。</p> <p>[洋画分野] 「美術・工芸演習(洋画)」で学んできたものを、より確かなものへと拡げていく。社会のさまざまな状況を俯瞰し、テーマ・発想・表現・素材・技法等を研究、自身の内面的要素の造形化に努める。また、西洋と日本がそれぞれ培ってきた優れた空間意識を学びながら、普遍的な造形表現についての認識を新たにし、想像から創造へ、柔軟な思考の中から個性的な造形表現を模索し、生涯いきいきと制作活動に励む「創り手」の育成をめざす。</p> <p>[陶芸分野] 「美術・工芸演習(陶芸)」での研究制作を発展させ、大学院修了後の創作活動への道を探る。また、技法の研究と素材としての土を見つめ直し、自らの表現を修了制作へ向けて深化させる。造形表現としての陶芸と、日常使うものとしての器を区別することなく各自の表現として捉えるところに、各自の独自性を求めていきたい。同時に制作研究ノートの作成で自らの創造の原点を再確認する。</p> <p>[染織分野] 「美術・工芸演習」の成果を土台にして自作のテーマを確立し、作品制作を行います。年間2作品を制作しますが、前半は実験的要素を含めた試作であり、後半は、より技法と主題の充実をめざし、修了制作作品と制作研究ノートを完成させます。制作研究ノートは、自作についての制作動機、表現技法、作品形態、素材について、教員と相談しながら論述をすすめていきます。</p>

環境デザイン領域 演習・研究科目

※環境デザイン領域のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
環境デザイン演習 SR	必	8	<p>〔建築デザイン分野〕 建築設計の演習課題に取り組む。課題を通じて、建築設計の実践的なプロセスを学ぶとともに、設計に対する考え方、何を手がかりにそれを進めるかについて学ぶ。クライアントから提示される実践的な要求を真摯に受け止めることからはじめ、基本設計から詳細の納め方、平面計画、構造・設備計画、外構計画に至るまで、現在進行形の実践を身につける。</p> <p>〔日本庭園分野〕 日本庭園の歴史・作庭技術・保存修復・管理運営に関わる基本的かつ本質的な講義をおこなうとともに、その実情を現地研修で検証する。また講評においては、各自が研究テーマ発表し、それぞれの研究の方向性、的確な史資料収集と分析法、有効な現地調査の手法、表現法等を助言する。これらのプロセスを通じて、各々の研究・調査・制作テーマの絞り込みと内容の深化を促す。</p>
環境デザイン研究 SR	必	8	<p>〔建築デザイン分野〕 「環境デザイン演習(建築デザイン)」の成果をふまえて、前期は建築設計の演習課題に、後期は修了制作に取り組む。課題を通じて、建築設計の実践的なプロセスを学ぶとともに、設計に対する考え方、何を手がかりにそれを進めるかについて学ぶ。クライアントから提示される実践的な要求を真摯に受け止めることからはじめ、基本設計から実施設計までの作業を行うことで、設計密度をあげる。</p> <p>〔日本庭園分野〕 「環境デザイン演習」での成果をふまえた上で、各自の論文、調査研究、制作を進めていく。論旨の明確さ、史資料分析の緻密さと考察結果の妥当性、論理構築におけるプロセスの整合性、文章力をはじめ表現の作法と正確さなどを懇切丁寧に個別指導することによって、独自の新知見を提示しうる最終成果品の完成をめざす。</p>

超域プログラム 演習・研究科目

※超域プログラムのみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
超域制作学演習 SR	必	8	<p>学生各自の修了研究に向けて、準備的な作業と試作を行う。 ※後藤ラボは「超域制作学演習Ⅲ」のみ履修可かつ必修 青木ラボは「超域制作学演習Ⅳ」のみ履修可かつ必修</p>
超域制作学研究 SR	必	8	<p>学生個々の修了研究を合評と遠隔講評により指導する。 ※後藤ラボは「超域制作学研究Ⅲ」のみ履修可かつ必修。最終成果物は「修士論文」 青木ラボは「超域制作学研究Ⅳ」のみ履修可かつ必修。最終成果物は「修士制作作品および制作研究ノート」</p>

学際デザイン研究領域 演習・研究科目

※学際デザイン研究領域のみ履修可かつ必修

科目名	科目分類	単位数	履修内容
学際デザイン演習Ⅰ SR	必	2	個人のビジョンを具体化するプロセスを、デザイン思考によって実践。実現したい世界を形にするための、視覚化・プロトタイプへの技法を学ぶ。
学際デザイン演習Ⅱ SR	必	2	協働による課題解決のプロセスを、グループワークからデザイン思考によって実践。社会や地域の課題を提案するための力を養う。
学際デザイン演習Ⅲ SR	必	2	「歴史的景観」や「聖地巡礼(ツーリズム)」を題材に、伝統文化に基づく文化資産を個人でリサーチ。それらを継続・発展させるための思考や議論を行う。
学際デザイン演習Ⅳ SR	必	2	「職人技術の継承」「墓・葬送儀礼」を題材に、伝統文化に基づく文化資産をグループワークでリサーチ。それらを継続・発展させるための思考や議論を行う。
学際デザイン研究 SR	必	8	「新しい価値を創造する(早川克美ゼミ)」「歴史ある対象を今に活かす(野村朋弘ゼミ)」の方向性からいずれかを選び、グループワークで課題を設定。解決へのプロセスを実践することで、価値の可視化を図る。

自由選択科目

科目名	科目分類	単位数	履修内容
環境デザイン実習Ⅰ～Ⅳ (インターンシップ/建築) S	選	各4	建築士事務所に出向き、設計図書の作成等の建築設計の補助業務を行う。事前ガイダンスへの参加、面談、報告書の提出が必須となる。 ※建築デザイン分野のみ履修可
論文研究基礎 S	選	1	論文執筆にあたって必要な、参考文献の探し方、専門的な辞書類の活用方法や図書館の利用方法など、各自の文献検索に資する情報をガイダンスする。その上でグループ討議などを通じて、先行研究に対する客観的批判力を養う。 ※学際デザイン研究領域履修不可
芸術史講義(日本)1 WS	選	2	日本の造形芸術について、その成立から平安時代、鎌倉時代を中心に学ぶ。
芸術史講義(日本)2 WS	選	2	日本の造形芸術について、近世および近代の絵画・工芸を中心に学ぶ。
芸術史講義(日本)3 WS	選	2	日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れを辿る。
芸術史講義(日本)4 WS	選	2	江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能について学ぶ。
芸術史講義(アジア)1 WS	選	2	中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史を学ぶ。
芸術史講義(アジア)2 WS	選	2	朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史を学ぶ。
芸術史講義(アジア)3 WS	選	2	中国の文学、音楽、舞台芸術について、古代から19世紀までの流れを学ぶ。
芸術史講義(アジア)4 WS	選	2	朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術について学ぶ。
芸術史講義(ヨーロッパ)1 WS	選	2	ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開を理解する。
芸術史講義(ヨーロッパ)2 WS	選	2	盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史を辿る。
芸術史講義(ヨーロッパ)3 WS	選	2	ヨーロッパの文学、音楽、舞台の歴史を古代ギリシアから18世紀まで辿る。
芸術史講義(ヨーロッパ)4 WS	選	2	18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流を学ぶ。
芸術史講義(近現代)1 WS	選	2	20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れを学ぶ。
芸術史講義(近現代)2 WS	選	2	アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史を学ぶ。
芸術史講義(近現代)3 WS	選	2	19世紀末からの文学、舞台芸術の流れを社会の動きとあわせて学ぶ。
芸術史講義(近現代)4 WS	選	2	近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷を学ぶ。